

### 在家仏教講演会 開催ご案内

「いのち尊し」5月号にてご案内しました東京会場での講演会は、コロナウイルス感染拡大予防のため、休会とさせていただきます。9月からの講演については、スタジオでの撮影の上、ネットでの動画配信を予定しております。なお、講師が決まりましたら改めてご連絡いたします。

6月13日 (土) 休会

9月12日 (土) 休会

10月10日 (土) 休会

11月14日 (土) 休会

12月12日 (土) 休会

1月16日 (土) 休会

#### 原稿をお待ちしています

◇「仏教と私」(八百字以内)  
人生を振り返って仏教と出逢ったときの感動をお書きください。  
◇読者からの手紙(八百字以内)  
講演会(講演録)の感想などをお書きください。

◇コラム「この一冊」(八百字以内)  
感銘を受けた書籍を紹介してください。新刊だけでなく、思い出の本も歓迎します。著者名、出版社名、発行年を忘れずに。

\*

原稿用紙またはメールに添付して、左記宛てにお送りください。住所、氏名、電話番号、よろしければ職業と年齢もお書きください。読みやすくするため、あるいは編集上の都合で、趣旨を変えない範囲で削ったり直したりする場合があります。採用分には薄謝をお送りします。

原稿の送り先は、〒101-0062  
〇六二 東京都千代田区神田駿河台三三三 五明館ビル 二〇二  
在家仏教協会「いのち尊し」  
係。メールはkamimura@zaikebuk  
kyo.com.jp。

# いのち尊し

## 協会の今後について

菅原伸郎  
(在家仏教協会理事長)

本協会の運営もいよいよ厳しくなっています。この数年来、財政基盤の弱体化が進み、各地での講演会を次々に休会とさせていたいただきました。さらに新型コロナ・ウイルス騒ぎのなか、多くの方が集まることから、東京会場での開催も難しくなっているのです。(詳しくは三ページ・四ページをご覧ください)

\*

本協会は一九五二年の夏、当初は「在家仏教会」の名で発足しました。機関紙「在家仏教」の第一号を読み返しますと、東京で開かれた創立総会で初代会長の加藤辨三郎・協和発酵工業社長はこう呼びかけています。

《まことに、人間の業苦今を盛りと見えるではありませんか。この時、…私には、ただ一筋の白道

第38号  
いのち尊し  
令和2年6月1日  
公益社団法人  
在家仏教協会  
〒101-0062  
東京都千代田区  
神田駿河台3-3  
五明館ビル202号  
TEL  
03-6684-6692  
FAX  
03-6684-6709

しかないのであります。仏に帰依、ただこの道一本であります。何となれば、争わずして平和に至る道は、これよりほかにないと信じます…》

朝鮮半島での戦闘こそ一段落していましたが、米ソの原水爆実験が相次ぐ東西冷戦のまっただ中でした。各地で人々は苦しみ、悲しみ、それでも争っていました。そして、そんな時代に「ただ一筋の白道しかない」と協会を立ち上げた方々がおられたのです。

当時の機関紙はこうした情熱にあふれていました。五三年七月号には、創立メンバーでもあった仏教学者の増谷文雄氏(のちに都留文科大文学長)が「三帰依文」の《僧に帰依したてまつる》について次のように書いています。この場合の「僧」とは、個人の僧侶の

ことではなく、集団としての「僧伽(さんが)」を指します。  
《私どもは、ただ、善きともがらを得て教えあい、善きともがらと手をたずさえて、はじめて、すこしでもこの道を踐(ふ)み行うことが出来るのであります。僧伽とはかかるもがらのつどいに外ならぬのであります》

\*

この夏に創立六十八年を迎える協会は、こうした先人たちの尽力から始まりました。そして、会員の方々、諸企業のご支援があったればこそ続いてきた、と改めて思います。講師の方たちと耳を傾ける会員とが「ともがら」となって学びの場を育ててきたのです。

伝統や形式に縛られない組織として、協会は各方面から注目もされました。在来生活のまま、家庭と仕事をもちつつ、会員たちは仏教を新しく学び直しました。自由に論じ合いました。他宗教・他宗派をも広く学ぶ場として、禅や浄土といった垣根を越えて、時にはキリスト教などの先生もお招きし

てきました。

\*

しかし、冒頭に記しましたように、諸事情から活動は限界を迎えつつあります。まことに残念なことですが、これも時代の流れかもしれないかもしれません。敗戦後間もない、あの厳しい時代に敢然と立ち上げられた協会なのに、なぜこの事態を迎えたのか…。

その背景にはまず、日本社会が物質的欲望に流されていったことが挙げられるでしょう。協会が発足して十年ほど経つと、世は高度成長期に突入します。それによって生活はたしかに豊かになりました。しかし、人生や社会を見つめ直す、自尊や先人の教えを学び直す、そんな生き方は忘れられたのではないでしょう。

皆さまのご支援によって今日まで歩んできた協会ですが、ここに至るまでには、あるいは別の道もありえたかもしれません。この十六年ほど、理事会の一員だった私としては、努力と工夫が足りなかったか、と忸怩(じくじ)たる思いをしております。しかし、現在と成りません。もうしばらく、皆さまとともに模索を続けます…。

# 読者からの手紙

## コロナ禍に思う

中村俊也  
(協会会員)

全国に発せられた非常事態宣言が三十九県で解除、残る九都道府県についても出口が模索され、そろりと経済・社会活動の復活が試されています。この間、私たちが目にしたものは何だったでしょうか。「不要不急の外出は控えステイホーム」「三密は避ける」など声高に叫ばれています。それで生活の糧を奪われた人々は置き去りになっています。動かない、近づかないことで私たちの生活が継続するとも思えません。

このような時こそ仏教者はどのようにに観るのか、仏法ではどのようにに捉えるのか興味湧くところです。ネット世界には元来馴染みが薄いのですが、この機にあたってみたところ、実に多くの御法話が動画でアップされていて驚きました。コロナのお蔭での発見です。当協会の講演会も順次動画配信されており、西田正法先生の『縁と絆』を聴講させていただきました。

感染を拡げないための隔絶分断を「縁」の世界ではどう考えるのでしょうか。

仏教は「私が仏になる教え」として何事も自分事として捉えることが重要で、あらゆる出来事の関係性(原因?結果||縁)のなかで今の状態があること、相互に影響を与えあっていることを説きます。「絆」とは本来「縛りつけるもの」であり、響きの良さから為政者が災害時に狡く使った?そしてご自身の師匠の例を挙げて、すべての縁(逆縁であつても)を良い結果につなげられるよう導く(「私」がそう思えるようになる)のが仏教であるというのです。

新型コロナウイルスが発生・拡散したことには人間の活動が影響していき、その結果は私たちの生き方にも甚大な影響を与えるでしょう。互いに影響を与えあう関係性のなかで、生きとし生けるもの全体がいかにか調和を保てるのか、断ではなく共生の道を探れるのか、私たちには大きな試練が課せられていると思います。昔から戦争・災害・疫病に際して宗教が見直されると言われていますが、今こそ仏教の叡智に光が当てられるべき時ではないかと感じています。

## 不思議な呪文との出会い

山田享世  
(協会会員・主婦)

小学六年生の時、男子生徒からいじめにあい、学校へ行くのが苦痛でした。父から、亡くなった祖父のように観音経をあげるよう言われました。毎朝、校門に近づくとおなかの中で呪文のように経文の一部を唱えました。経典は不思議な力を持つ呪文でした。

社会に出た時も人間関係に悩みました。契約期間満了が近い年配女性が帰社時刻近くになると仕事を押し付けます。自分だけあからさまに態度を変えます。私の前に幾人も辞めていったと聞きました。父は私に、法華経の勸持品の読誦を勧めました。勸持品は、迫害や法難に耐えて法華経を持つ経文です。耐える事を勧められたのだと思いました。しかし、昔のようには読誦する気持ちにも、耐える気持ちにもなれませんでした。

そんな私に、父は「恨みや羨望を止める経文だ」と言いました。積尊の養母、摩訶波闍波提比丘尼と出家前の妻、耶沙陀羅比丘尼の二人の夫人が積尊に授記を乞う心

の動きのとは嫉妬であるが、勸持品には、積尊がそれをお止めになる様が描かれているというのです。衝撃的な読み方でした。法華経の登場人物に人間としての親しみを感じた瞬間でした。

増谷文雄著『ブツダ・ゴータマの弟子たち』(現代教養文庫)を手にしました。仏陀や声聞の方々の人となりを知りたくなったのです。富楼那と仏陀の対話に目が止まりました。富楼那は故郷へ帰って仏陀の教えを弘める決意をしますが、その地の人々は気性が荒々しいといえます。仏陀は気がかりで、もし迫害を受けたならどうするかと繰り返し問います。富楼那の揺るがない決意を知った仏陀は彼を送り出します。富楼那の身を案じて心砕く仏陀と富楼那の強い覚悟とが滲み出ている記述にハツとしました。

勸持品の誓言の向こうに、富楼那を思いやる仏陀がいるように思われたのです。不思議な呪文との出会いが、いつしか仏陀と自分を繋ぐ道となっていました。経文は幾度も姿を変えて現れ、その度に出会いを繰り返してきたように思うのです。

## 通常総会を開催します

在家仏教協会では、第七十五回通常総会を六月二十五日(木)午後二時から協会事務所において開催いたします。総会では、令和元年度の事業報告、収支決算などについてご審議いただきます。

六月上旬に「招集ご通知」をお送りします。コロナウイルス感染拡大防止のため、委任状を返信いただきましたく、ご協力宜しくお願いいたします。

なお、招集ご通知は、令和二年三月末現在の会員の皆様にお送りします。大法輪休刊後の退会のご返事をいただいた方にもお送りします。宜しくお願い致します。

## 「大法輪七月号」に在家仏教講演会の講演録が掲載されました

人生は迷いと悟りの織物

田上太秀(駒澤大学名誉教授)

令和元年十月二十六日に東京会場で開催されました在家仏教講演会において田上太秀先生よりお話を伺いました。

# 在家仏教通信

## 在家仏教講演会は当面休会とさせていただきます

中野サンプラザで開催しております在家仏教講演会は、三月よりコロナウイルス感染拡大防止のため延期させていただきました。

しかし、感染が縮小した場合においても秋、冬以降に二次感染の恐れがあること、講演会場において「三密」防止のための対応が難しいこと、そして、来場者に高齢の方が多く感染された場合、重症化が懸念されること、などの理由により当面、講演会を休会させていただきますことといたしました。

九月からは、皆様に講演会をお届けするため、月一回スタジオに

て講演を撮影し、ネットでの配信を検討しております。

## 「大法輪」休刊にともなう対応について

有限会社大法輪閣は、月刊誌「大法輪」を七月号(六月一日発行)をもって休刊すると発表しました。「大法輪」は、在家仏教協会が発行する月刊誌「在家佛教」休刊の後、在家仏教講演会の講演録を掲載し、協会より会員の皆様にお届けしてまいりました。

「大法輪」休刊による対応として、現在の機関紙「いのち尊し」をリニューアルした小冊子「いのち尊し」をお届けいたします。東京会場での講演会筆録を掲載する予定でしたが、講演会がコロナウイルス蔓延のため休会となつ

## 在家仏教協会 四つの信条

- 一、 積尊の説法虚言ならずと信じていること。
- 二、 積尊の説法の内容そのものは永遠の真理であるが、それを大衆に知らせる手段は、時と処と人に応じつねに新鮮でなければならぬと信じていること。
- 三、 呪術らしきものは一切排除すること。
- 四、 在家生活のまま仏教に生きようとしていること。